

社会的な見方や考え方を成長させる中学校社会科授業の可能性

岡崎 誠司・大浦 瑞紀

社会的な見方や考え方を成長させる中学校社会科授業の可能性

岡崎 誠司・大浦 瑞紀*

Development of a Lesson in Junior High School Social Studies for the Growth of Social Knowledge and Value

Seiji OKAZAKI Mizuki OURA

摘要

本研究の目的は2点ある。1点目は、社会的な見方や考え方を成長させる中学校社会科授業を再現可能な形で具体的に提起することである。2点目は、社会的な見方や考え方を成長させる中学校社会科授業の可能性を探ることである。この目的を達成するため、本研究では、中学校社会科地理的分野「アフリカ州」において、子どもの獲得する知識・概念・価値を構造として示し、さらにそれに対応する形で問いの構造を示した。そうして実験授業を実施し、分析した。その結果、以下2点の成果を得た。1点目の成果は、社会的な見方や考え方を成長させることのできる中学校社会科単元を「教師による発問・指示」「期待される生徒の反応」「教師と生徒の活動」「使用する資料」を明示した授業案として提起できたことである。2点目の成果は、社会的な見方や考え方を成長させる授業は、社会参画の資質・能力を育成するとともに、生徒の関心・意欲を向上させ、主体的に学習に参加させることを観察できたことである。

キーワード : 社会的な見方や考え方、中学校社会科、単元開発、知識・概念の構造、問いの構造

Keywords : Social Knowledge and Value, Junior High School Social Studies, Unit Development, Structure of Knowledge and Concept, Structure of Question

1 研究の目的

本研究の目的は、2点ある。

1点目は、社会的な見方や考え方を成長させる中学校社会科授業を再現可能な形で具体的に提起することである。周知のように、現行の平成20年版中学校学習指導要領社会科では、「社会的な見方や考え方を成長させる」ことが一層重視されるとともに、「習得すべき知識・概念の明確化を図る」ことが求められている¹⁾。それにもかかわらず、この2点を具体化した中学校社会科の授業実践を見つけることはかなり困難である。なかでも、地理的分野でアフリカ州を取り上げた実践及び論考は非常に数少ない。

そこで、岡崎がかねてより提起している「知識・概念の明確化」を踏まえた「社会的見方・考え方」²⁾に基づいてアフリカ州の単元を開発することを通して、中学校社会科の授業モデルを提起したい。授業モデルとは、授業構成の理論と再現可能な形で明示された単元レベルでの授業案によって構成される。ここで具体的に提示する中学校社会科の授業モデルは、中学校現場教員の授業改善に資するであろう。

2点目は、社会的な見方や考え方を成長させる中学校社会科授業の可能性を探ることである。現行学習指導要

領では、教育基本法や学校教育法の改正を踏まえて社会参画の資質・能力の育成が重視されている。ただしその育成は、地理的分野では「身近な地域の調査」で、公民的分野では「社会科のまとめ」で、教師によって意識されるであろう³⁾が、通常の授業なかでも中学校1年生単元「世界の諸地域」では、意図されにくい。そこで、本研究では、社会的な見方や考え方を成長させる授業は、子どもにとって社会参画の資質・能力を育成する授業となる可能性があることを実験授業の実施・改善を通して示したい。

2 研究の方法

本研究は以下の手順で実施される。

- (1) 「社会的見方・考え方の成長とは何か」について、確認し、授業論を提起する。
- (2) 開発単元「アフリカ」の内容編成を明らかにする。
- (3) 社会的見方・考え方を成長させるための単元構成論を明らかにする。
- (4) 開発単元「アフリカ」における「知識・概念の構造」と「問いの構造」を明らかにする。
- (5) 実験授業を実施する。
- (6) 開発単元「アフリカ」の授業モデルを提起する。
- (7) 研究の成果をまとめる。

* 富山県南砺市立井波中学校

なお、本研究では、理論構築を岡崎が担当し、実験授業を大浦が担当する。

3 社会的な見方や考え方を成長させる授業論

社会的見方・考え方の成長とは、何か。以下の図1により、確認したい。学習指導要領で明確化を求めている「知識」「概念」を、岡崎はこれまでの研究で、次のように定義して、社会的見方・考え方を明らかにした⁴⁾。

知識とは、個別的記述的知識のことである。これは、個別的な事象を記述した命題であって、「～は～である」という形をとることが多い。概念とは、概念的説明的知識のことである。これは、原因・結果の関係や条件・予測の関係など事象相互の関係性を説明した命題であって、「～だから～である」という形をとることが多い。一つの社会的な事象は、複数の関係性から説明することが可能であり、概念は、社会的見方といえる。概念すなわち社会的見方は、具体的事実としての数多くの知識によって支えられている。ただし、社会科で扱う内容には、知識や概念といった事実に関わる知識以外に価値がある。これは社会的考え方といえる。価値多元社会である現代では、複数の社会的考え方が存在しているといえる。

筆者は、数多くの知識を習得することを「社会的見方・考え方の広がり」と定義する。そして、知識相互の関係性がわかり、さらに価値を持つことを「社会的見方・考え方の深まり」と定義する。筆者は、この広がりや深まりが同時に進行する状態を「社会的見方・考え方の成長」と定義した。

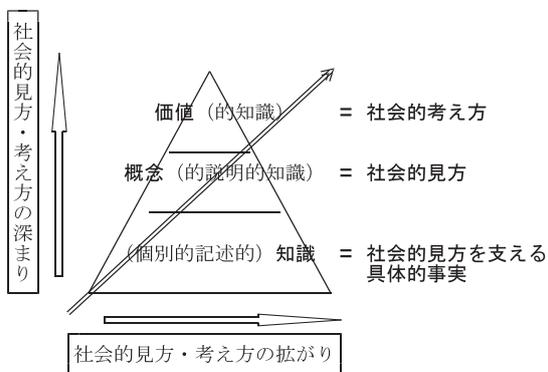


図1 社会的見方・考え方の成長モデル

さて、社会的見方・考え方を成長させるためには、どのような授業論が有効なのだろうか。

これまで、そして今も多く現場の先生方に支持されている授業が、教養型授業である。これは、広く浅く知識を獲得させる授業である。この授業論では、社会的見方・考え方の広がりや期待することはできるが、深まりは期待できない。一方、戦後の有名な実践、吉田定俊指導「水害と市政」をはじめとした問題解決型授業⁵⁾は、長い歴史と一部現場教師・研究者の根強い支持がある。これは、問題場面において目的(願い)を実現するための最も合理的な手段・方法・解決策を考える活動によって構成される。問題解決型授業は、現代社会においても、環境問題など社会問題の判断を求める授業として構成で

きるだろう。ただし、この型の授業は、授業時間数の多さや這い回る危険性といった問題を抱えている。

そこで、筆者が本研究において参考にしたい授業論が、説明型授業である。これは、生徒に科学的に説明させることによって、社会的な事象の背後にある科学的知識を習得させる授業論である⁶⁾。この授業論を参考にしたい理由は3点ある。一点目の理由は、この授業論は、科学的知識の習得をめざすからである。科学的知識とは、概念・法則・理論であり、社会的見方といえる。二点目の理由は、現行中学校社会は、思考力・判断力・表現力を育成するために4つの学習活動すなわち「読み取る、解釈、説明、論述」を重視しているからである。説明型授業では、この4つの学習活動は不可欠である。三点目の理由は、中学校学習指導要領及び教科調査官は、学習指導要領解説などにおいて、「なぜ疑問」で始まる主題を想定しているからである。以下に、主題例を抜き出そう⁷⁾。

「なぜアジアでは人口が急増し、民族、文化が多様なのか」(アジア)「なぜ、フランスはヨーロッパで一番貨物車保有台数が多いのだろうか」(ヨーロッパ)「なぜアメリカやカナダは農業生産力だけでなく工業生産力も高いのか」(北アメリカ)「なぜアマゾンの森林が減少し、サトウキビ栽培が増加しているのか」(南アメリカ)「なぜオセアニアは、ヨーロッパに代わってアジアとの結び付きが強まってきたのか」(オセアニア)

これらとは異なって、アフリカだけが「第一次産品にたよるアフリカ諸国の人々は、どのような生活をしているのか」と「どのような疑問」が例示されている⁸⁾。「なぜ疑問」を中核発問とする授業論が説明型授業である。アフリカを扱った場合も、「なぜ疑問」は有効だろう。ただし、説明型授業は、価値すなわち社会的考え方の育成をめざさない。そこで、説明型授業を参考にしつつ、社会的な見方や考え方を成長させる新たな授業論を提起したい。

ここで研究対象とするアフリカ州は、経済成長著しいとはいえ、多くの解決困難な社会問題を抱えている。学習内容は、「どのような社会問題が存在するのか」「なぜ社会問題は発生したのか」「社会問題の解決策は何か」「現地の人々や日本に住む私たちは、どうすればいいのか」といった問いに答えるものでなければならないだろう。本研究では、「社会的な見方や考え方を成長させる授業は、社会参画の資質・能力の育成を可能とする」という仮説を立てて、授業を開発する。そこで、本研究での開発単元においては、「なぜ疑問」を中核発問とする説明型授業を参考としつつも、社会問題を理解し、その原因を探求した後、解決策を考え、他者の解決策を評価する過程としたい。

4 開発単元「アフリカ」の内容編成

(1) 主要国

学習指導要領によると、主要国及び主要産業を追究してアフリカの地域的特色を理解させることとなっている⁹⁾。そこで、アフリカ諸国のGDPをみると、上位三大国は、

南アフリカ、エジプト、ナイジェリアであり、この三大国でアフリカ全体の46%を占めている。(2010年)そして、多くの国が4%以上の高い成長率を誇る中、ナイジェリアは7%以上のさらに高い成長率を維持している。また、人口の三大国は、ナイジェリア、エジプト、エチオピアである。そこで、本開発單元では、ナイジェリアを中心教材としたい。

(2) 主要産業

アフリカにおける主要産業は、鉱業と農業である。鉱産物と農産物がアフリカの輸出の3/4を占め、一次産品供給地としての位置づけとなっている¹⁰⁾。なかでも、鉱業の比率は、近年増大している。世界的需要拡大と価格の上昇が起きているからだ。例えば、近年のアンゴラの高度成長は石油生産の拡大による。

一方、農業は、土地生産性・労働生産性が低い。それは、これまで、アジアにおいて、高収量品種への改良や肥料など革新技術の導入によって生産性を向上させてきたこと、とは対照的である。そこで、アフリカでは穀物の大量輸入を強いられ、物価・人件費は高く、貧困の連鎖を生んでいる。ナイジェリアのような成長率著しい国も例外ではなく、絶対的貧困人口比率(1.25米ドル/日で暮らす人々の割合)は、68%と非常に高く、格差は広がっている。

(3) 地域的特色

学習指導要領の「内容の取り扱い」¹¹⁾では、「人々の生活の様子」「我が国の国土の認識」という2つの観点および主題例「モノカルチャー経済下の人々の生活」が示されている。これらを踏まえて、アフリカの地域的特色を因果連関でまとめると図2のようになるだろう。

アフリカの貧困は、製造業や農業の発展が阻害されているからであり、その原因は、3点挙げられる。

一点目に挙げられる原因は、いわゆるオランダ病とも呼ばれる「資源の呪い」である。これは、「天然資源の収益がない場合には、完全な民主主義国は独裁国よりも経済成長しやすいが、天然資源からの収益が大きい場合には逆になる」という理論である¹²⁾。アフリカには資源があることがかえってマイナスに作用している。それは次のような因果連関である。鉱産物生産が拡大すると為替が上昇する。すると国際競争力が低下し、国内資本・熟練労働の偏りが生まれる。結果として、製造業や農業が発展できないということになる。

二点目に挙げられる原因は、平均賃金が高いからである。かつてアジアでは、生産性の向上により、農業人口は減少し、農村からの低廉な余剰労働力が製造業の発展を促進した。これは、わが国も例外ではない。一方アフリカでは、少ない穀物生産が物価高を招き、平均賃金を

上昇させている¹³⁾。したがって、鉱業以外の産業、すなわち製造業が成長しにくい。

三点目に挙げられる原因は、教育・保健政策の欠如である。鉱業へ政治的関心が集中してしまうがために、教育・保健政策が進まない。国民の安心・安全を確保し、質の高い労働力を供給するという政治の基本的役割が果たされていないのである。

図2に示した因果連関は、アジアにはみられないアフリカの地域的特色といえる。

5 社会的な見方や考え方を成長させる単元の構成

本研究では、社会的見方・考え方の成長を、生徒自身が知識の獲得から概念の獲得へ、さらには価値の獲得へと成長すること、と捉えている。そこで、前半では、アフリカとヨーロッパとの歴史的つながり、農村での生活、都市での生活を「どのような」発問のもと理解させ、アフリカが抱える社会問題を明らかにさせる。(表1参照)その上で、単元を通しての課題「ナイジェリアは経済が発展しているのになぜ農村も都市も貧しい人が多いのか」(表1の下線部)を設定し、具体的な事例・携帯電話の現地生産を取り上げて、社会問題の原因を探求させる。ここまでは、生徒が資料を読み取り、解釈し、説明・論述できるよう「なぜ」発問を中核として展開していく。そしてアフリカが抱える貧困という問題を解決する方法を「ナイジェリアの大統領は人々の暮らしがよくなるためにどのようなことをすべきでしょうか」という問いのもと、農民・都市に住むお父さん・都市に住むお母さん・子どもたちそれぞれの立場から話し合わせる。単元終末には、それぞれの解決策をお互い評価させるとともに、JICA職員より評価をいただいて終わる。

さて、生徒たちが社会的な見方から考え方へと成長できるように2点の工夫をした。1点目の工夫は、以上に示したように、単元全体を「社会問題の理解」「社会問題の原因の探求」「社会問題の解決策の探求」「社会問題の解決策の評価」という4つの段階で学習課題を探求する展開としたことである。

2点目の工夫は、生徒の獲得する「知識」「概念」を構造化するとともに、それに対応した「問いの構造化」を図ったことである。論文末の図3のように左側「具体的事実・教えたこと(知識)」から右側「概念」「中心概念」「社会的考え方(価値)」へと単元展開とともに生徒の社会的見方・考え方は成長できるよう、構造化している。そうして、図3に対応して「なぜ疑問を中核発問とした問いの構造化」を図り、図4に示した。

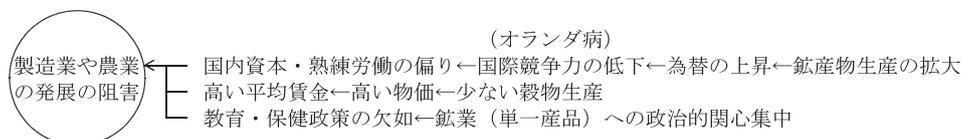


図2 アフリカの地域的特色

表1 単元「アフリカ州」の構成

※ 下線部は単元を通しての課題

次	過程	中核発問	資料	形成が期待される社会的な見方・考え方
1	社会問題の理解(1)	アフリカとヨーロッパの国々にはどのようなつながりがあるのでしょうか。	①使用言語とアフリカ～ヨーロッパ間の航空路 ②アフリカ各国の輸出相手国 ③アフリカの独立国	・植民地支配を受けた国々では、旧宗主国とのつながりが残り、今も貿易、言語に大きな影響を受けている(社会的な見方)
2	社会問題の理解(2)	特定の農産物の生産ばかりを行うとどのような問題点が考えられますか。	④主なチョコレート・ココア消費国 ⑤カカオ豆の価格の変化 ⑥人口1億以上の国の人口の変遷と穀物自給率 ⑦コメの輸入国構成比	・プランテーション農業は国際競争が激しく利益が様々な条件に左右されるので不安定になりやすい。(社会的な見方) ・一年中同じ作物が生産できる気候や地形、植民地支配を受けた歴史から生まれたモノカルチャー経済はアフリカの国の発展に大きく影響し、国民は貧困から抜け出しにくい。(社会的な見方)
3	社会問題の理解(3)	発展途上国で経済が発展してくると、人々の生活にどのような変化が見られますか。 <u>ナイジェリアは経済が発展しているのになぜ農村も都市も貧しい人が多いのでしょうか。</u>	⑧アフリカ各国や日本、アメリカの経済成長率 ⑨5歳未満の児童の死亡率のワースト国10とその国の平均寿命 ⑩ナイジェリアの年間可処分所得ピラミッド	・発展途上国で経済が発展すると、都市化が進み、富裕層と貧困層の経済的な格差が大きくなる。(社会的な見方)
4	社会問題の原因の探求	なぜ、アフリカで携帯電話が普及しているのに現地で生産しないのでしょうか。	⑪アフリカ各国の携帯電話の普及状況 ⑫携帯電話の主な生産国 ⑬アフリカの国々の非識字率 ⑭初等教育(小学校)就学率 ⑮アフリカに進出した企業の今後の事業展開 ⑯各国の製造業平均賃金 ⑰世界の主要国の年間1人当たり電力消費量 ⑱アフリカ各国の年間1人当たり電力消費量	・アフリカ各国の貿易では特定の資源を海外に輸出して外貨を得るため、国際情勢の変化に影響されやすく、経済が不安定になりやすい。(社会的な見方) ・商品を生産するには原料の調達だけでなく、技術やインフラなどの物的整備、教育などの人的整備が必要になる。(社会的な見方)
5	社会問題の解決策の探求	ナイジェリアの大統領は人々の暮らしがよくなるためにどのようなことをすべきでしょうか。	⑲ナイジェリアの大統領選挙	・国の経済を安定させ、貧困から脱出するためには医療、教育、農業・工業への支援、インフラの整備、政府への指導を行うべきである。(社会的な考え方)
6	社会問題の解決策の評価	ナイジェリアの人々が貧困から脱出するために日本やあなた自身が何をすればよいのでしょうか。		・アフリカの国の経済を安定させ、貧困から脱出するためには日本は資金・技術・人の交流を積極的に行い、国の発展の基礎となる医療、教育、農業・工業への支援を行うべきである。(社会的な考え方)

6 社会的な見方や考え方を成長させる中学校1年生社会科単元「アフリカ州」の開発

(1) 単元の指導目標

< 知識・理解目標 >

アフリカの経済における現状、原因、およびその解決策の探求を通して、以下の知識や概念を習得する。

中心となる概念：

一年中同じ作物が生産できる気候や地形、植民地支配を受けた歴史から生まれたモノカルチャー経済はその国の経済を左右し、国民は貧困から抜け出しにくい。

< 概念 >

- A 植民地支配を受けた国々では、旧宗主国とのつながりが残り、今も農業、貿易、言語に大きな影響を受けている。都市化に伴い穀物需要が増える中、輸出用作物を中心に栽培し、穀物を輸入に頼るため物価が高く、平均賃金も高い。
- B アフリカ各国の貿易では特定の資源を海外に輸出して外貨を得ているため、国際情勢の変化に影響されやすく、経済が不安定になりやすい。
- C 発展途上国において経済が発展し都市化が進むと、富裕層と貧困層の経済的な格差が大きくなる。
- D 商品を生産するには原料の調達だけでなく、技術やインフラなどの物的整備、教育などの人的整備が必要になる。

※ 概念を支える知識については構造化して論文末図3に示している。なお、単元開発にあたっては「知識・概念の構造化図」に対応して、図4の「問いの構造化図」も作成して、実験授業を実施した。

< 態度・能力目標 >

- ・ アフリカ州の国々の貧困の理由や経済的に自立するための方策について意欲的に調べ、自分の考えを持つようとしている。

【関心・意欲・態度】

- ・ アフリカ州の農業と工業の問題点や貧困対策について、自分の仮説を立てたり予測したりして説明することができる。

【社会的な思考・判断・表現】

- ・ 収集した資料から、アフリカ州の地域的特色について有用な情報を適切に選択し、自らの考えに活用することができる。

【資料活用の技能】

(2) 学習指導過程

※ 下線部は中核発問 ゴシックは知識・理解目標としての理論

過程	教師による主な発問・指示	教師と生徒の活動	期待される生徒の反応
第1次・社会問題の理解(1)	1 アフリカの国境線にはどんな特徴がありますか。何を利用して引かれていますか。(既習事項)	T発問する S 帝国書院地図帳 p 34 を見て答える	・直線的な国境線が多い。 ・経線(経度)や緯線(緯度)に沿って国境線が引かれている。
	2 アフリカの国々はどの国の植民地でしたか。また第1次世界大戦前に独立国だった国はいくつありますか。	T発問する S 地図帳 p 40 を見て答える	・イギリス、フランスなどヨーロッパの7か国の植民地だった。 ・独立していた国はエチオピアとリベリアの2か国だった。
	3 ナイジェリアは今から何年前、どこから独立しましたか。また、何語を話し、学校では何語を話しますか。(公用語)	T発問する S 地図帳 p 132 や教科書(帝国書院2012年) p 72 を見て答える	・1960年、今から55年前にイギリスから独立した。 ・ハウサ語、ヨルバ語、イボ語を話し、学校ではこの3つ以外に英語を学ぶ。
	4 公用語が英語のアフリカの国を挙げて下さい。	T発問する S 教科書 p 72 を見て答える	・ガーナ、ケニア、シエラレオネ、ザンビア
	5 今調べたことから、イギリスとナイジェリアに共通することは何ですか。	T発問する S 答える	・植民地だった国は支配されていた国の言語を今も公用語として使っている。
	6 このようなつながりは他にも見られるか、資料から調べてみましょう。	T指示する S 資料①、②、③を見て答える	・旧宗主国との間で飛行機の便数が多い。 ・貿易相手国はヨーロッパ、特に旧宗主国が多い。

	7 <u>アフリカとヨーロッパの国々に</u> はどんなつながりが見られますか。	T 発問する S 自分の考えをノートに書いて発表する	・植民地支配を受けた国々と旧宗主国との間に今も貿易、言語につながりが残っている。
第2次・社会問題の理解(2)	8 これはアフリカの各国の主な輸出品のグラフです。アフリカの国々の輸出品目についてどんな特色がみられますか。	T 発問する S 教科書 p 74 を見て答える	・アフリカの国々の輸出品は一次産品や特定の農作物に偏っている。 ・工業製品の輸出が見られない。
	9 これはガーナの農園で撮影された映像です。(映像を見た後)働いている人々は何歳ぐらいでどんな様子で働いていましたか。	T 発問する S DVD を視聴して答える	・子どもたちが多く、学校にも行っていない。 ・労働者は安い賃金で働かされている。
	10 カカオ豆は何の原料となりますか。何州のどの国で栽培され、どの国でチョコレートは消費されていますか。	T 発問する S 教科書 p 74 と資料④を見て答える	・チョコレートやココア飲料の原料。 ・コートジボアールやインドネシア、ガーナ、ナイジェリア、ブラジル、カメルーン、多くがアフリカ州の国で栽培されるが、消費するのはドイツ、スイスなどヨーロッパの国である。
	11 最近、フェアトレードのチョコを店頭で見かけますが、フェアトレードとはどんなしくみなのか、教科書を読んで答えましょう。	T 発問する S 教科書 p 76 を見て答える	・発展途上国の生産者の生活を支えるために適正な価格で取引するしくみ。
	12 カカオ豆の値段が安いと書いてありましたが、値段にはどのような変化が見られますか。価格が上がるのにどんな理由が考えられますか。	T 発問する S 資料⑤を見て、予想をノートに書き、発表する	・価格は年によって変動する。2014年からカカオの需要が高まり、価格が上昇した。2012年までは暴落していた。 ・天候が不順で生産量が減った時やチョコレートの消費量が増えた時に上がる。
	13 ナイジェリアのカカオ生産量は世界何位でしたか。また、ナイジェリアの穀物自給率は何%で、人口が増加する今後、自給率についてどんなことが考えられますか。	T 発問する S 資料⑥、⑦を見て答える	・ナイジェリアは世界第4位。 ・穀物自給率は84%である。 ・ナイジェリアの自給率は人口が増加するので、下がると予想される。 ・コメの輸入を行っているが、人口も増加するのでさらに輸入量を増加していくと予想される。
14 <u>特定の農産物、例えばカカオ豆</u> ばかり作っているとどんな問題点が考えられますか。	T 発問する S 予想し、発表する	・穀物自給率が下がり、食糧不足になる。 ・カカオ豆に生産が集中すると、価格変動の影響を大きく受ける。価格が下がると農家の人々の収入が減り、高くなると農家の人がカカオ豆ばかり生産し、主食のコメを作ろうとしなくなり、主食の穀物を輸入に頼る。また、人手も足りなくなり、給料や物価が上がる。 ・プランテーション農業は国際競争が激しく利益が様々な条件に左右されるので不安定になりやすい。	
15 特定の農産物に頼る農業を続けると、ナイジェリアの経済はどのようなになると予想されますか。	T 発問する S 予想し、発表する	・特定の作物だけ作ると、作物のできや価格などに影響を受けるので、農民の暮らしはよくはならない。 ・農業だけでは国が成長するのが難しい。 ・一年中同じ作物が生産できる気候や地形、植民地支配を受けた歴史から生まれたモノカルチャー経済はアフリカの国の発展に大きく影響し、国民は貧困から抜け出しにくい。	
16 ナイジェリアのこの状況に対してどのような対策を考えていけばいいですか。農民、政府、一般の人々の立場に立ち、班で考えましょう。	T それぞれの立場から対策を考えるよう指示する S 話し合い、出た意見を発表する	・カカオ以外の作物を作る。(品種改良) ・フェアトレードをもっと進める。 ・カカオ以外を作る農家に補助金を出す。 ・学校に行き、農業以外の仕事に就く。 ・鉱産資源を生かし、工業化を図る。 ・中国のように一人っ子政策を行い、人口を抑制する。	

<p>第3次・社会問題の理解(3)</p>	<p>17 これはナイジェリアの旧首都ラゴスの写真です。この街は1600万人以上と現在アフリカで一番人口の多い街です。写真からどのようなことがわかりますか。</p> <p>18 ナイジェリアの経済成長率は日本やアメリカと比べてどのような特徴がみられますか。</p> <p>19 ナイジェリアのように人口が都市に集中していく時のメリットは何ですか。</p> <p>20 (ナイジェリアの首都だったラゴスのスラム街の映像を見て) この街のような都市ではどのような問題があると考えられるか、答えましょう。</p> <p>21 ナイジェリアと日本の平均寿命は何歳ぐらいですか。また、5歳未満の子どもの死亡率はどの程度ですか。</p> <p>22 ナイジェリアの中で、1年間に45,000円未満で生活している人々は国民の何%を占めますか。富裕層の割合は日本と比べどのように異なりますか。</p> <p>23 <u>経済発展が進むナイジェリアでは、人々の生活にどのような変化が見られますか。</u></p> <p>24 <u>ナイジェリアでは経済が発展しているのに、農村でも都市でも貧しい人が多いのはなぜですか。</u></p>	<p>T発問する S写真を見て答える</p> <p>T発問する S資料⑧を見て答える</p> <p>T発問する S予想して、答える</p> <p>T指示する S DVDを見て答える</p> <p>T指示する S資料⑨を見て答える</p> <p>T発問する S資料⑩を見て答える</p> <p>T発問する S予想して答える</p> <p>T発問する S予想して答える</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・近代的な高層ビルが並び、人が多く、自分たちの住む町より発展している。 ・ナイジェリアの経済成長率は6.31%と急速に発展している。日本は-0.1%、アメリカは17兆2.42%である。 ・都市に商品が集まり、モノが売れる。 ・職業の幅が広く、就職しやすい。 ・都市は道路や電気などの設備が整っている。 ・高層ビルが立ち並び、金持ちがいる一方、スラム街が広がり、ごみが散乱し、子どもたちは学校に行くことができない。医療や住宅、環境、教育、治安に問題があることが分かる。 ・日本が84歳、ナイジェリアは53歳である。また、死亡率もナイジェリアは極めて高い。 ・45,000円未満割合が62.3%であり、国民の大部分を貧困層が占めている。 ・貧しい人と金持ちの格差の割合は日本と比べ大きい。 ・発展途上国で経済が発展しても、富裕層と貧困層の経済的な格差は大きく、多くの人々がその恩恵を受けにくい。 ・農業では特定の作物しか作れず、収益が毎年異なり、生活が不安定になるから。 ・工業が日本のように盛んでないから。 ・農村の貧しい人々が都市に移住しても技術もなければ仕事に就けず、貧しいままだから。
<p>第4次・社会問題の原因の探求</p>	<p>25 (携帯電話の普及率が書かれたグラフを見せ) 日本を示すものはどれですか。</p> <p>26 (ナイジェリアで撮影された携帯電話を使う写真を見せ) アフリカではどんな鉱産資源が取れますか。また、携帯電話を作るのに必要なコバルトや金はどこでとれますか。</p> <p>27 携帯電話を多く生産している国はどこですか。</p> <p>28 <u>ナイジェリアで携帯電話が普及しているのになぜ現地では生産しないのでしょうか。</u>ノートに自分の考えを書きましょう。</p> <p>29 工場では工業製品を作り、出荷するときにかかせないものは何ですか。</p> <p>30 文字が読めないと、仕事をするときにどのようなデメリットがありますか。(仮説1に対して)</p>	<p>T発問する S資料⑪を見て答える</p> <p>T発問する S教科書 p 75を見て答える</p> <p>T発問する S資料⑫を見て答える</p> <p>T発問する S自分で考え、ノートにまとめる</p> <p>T発問する S予想して答える</p> <p>T発問する S予想して答える</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アフリカ、ナイジェリアでは携帯電話が普及し、普及率は75%以上である。日本は94.5%である。 ・アフリカでは原油や石炭、鉄鉱石、金や銅など豊富にとれる。 ・希少金属(きしょうきんぞく、レアメタル)であるコバルトはコンゴ民主共和国やザンビア、マンガン、金、プラチナは南アフリカで採掘されている ・携帯電話は韓国、中国、アメリカ等で生産し、アフリカでの生産は進んでいない。 ・教育を受けた人が少なく、高い技術をもった技術者がおらず、精密部品等が作れないから(仮説1) ・他国と比べて労働者の賃金が高く、外国の会社が進出しないから(仮説2) ・電力などのインフラが整っておらず、製品を生産することが難しいから。(仮説3) ・労働者、原料、技術・工場の設備だけでなく、電力、輸送手段(トラック)、道路等のインフラも必要である。 ・説明書や書類がわからないので、専門のスキルを必要とする賃金の高い仕事に就業できない。

	<p>31 ナイジェリアの識字率や小学校就学率は日本と比べどの程度ありますか。(仮説1に対して)</p> <p>32 (資料⑮を見て) アフリカに進出する日本企業数は増えています。多くの会社が何を目的にアフリカに進出していますか。アフリカの国々において労働者の賃金はアジアの国々と比べてどのような特色がありますか。(仮説2に対して)</p> <p>33 世界各国の一人当たりの電力消費量を見て、ナイジェリアではどんな問題が起こることが考えられますか。(仮説3に対して)</p> <p>34 ナイジェリアでインフラ整備、例えば電力不足を解決するにはどのようなことを誰がすればよいでしょうか。(仮説3に対して)</p>	<p>T 発問する S 資料⑬、⑭を見て答える</p> <p>T 発問する S 資料⑮、⑯を見て答える</p> <p>T 発問する S 資料⑰、⑱を見て答える</p> <p>T 発問する S 予想して答える</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育が整備されておらず、ナイジェリアの小学校就学率は64.1%で非識字率も40%と高い。 ・企業数は増加しているが、生産ではなく販売のためにアフリカに進出している。人件費はアジア諸国に比べかなり高い。 ・販売に力を入れるのは、アジアの国々のように現地に進出し、生産するには人件費が高く多くの人を雇えないから。 ・電力消費量は極めて少ない。生産に回す電力がなく、工場が動かない。 ・ナイジェリアの石油を用いることが可能な火力発電所を各地に作る。 ・企業だけでなく、国も発電所の建設に力をいれるべきである。
<p>第5次・社会問題の解決策の探求</p>	<p>35 今年ナイジェリアでは新しい大統領が選ばれました。<u>大統領は、人々の暮らしがよくなるためにどのようなことにお金を使うべきでしょうか。</u>班の中で農村に住む人々、都市に住むお父さん、お母さん、子どもたちの立場に分かれ、どんなことに力を入れてほしいかを考え、書きましよう。</p> <p>36 それぞれの立場で考えたことを班で発表した後、大統領が力を入れる項目を考え、ホワイトボードにまとめましよう。その際に何が重要か、ランキングをつけましよう。</p> <p>37 ホワイトボードにまとめたものを掲示し、班の発表者がランキングをつけた理由とともに発表ましよう。</p> <p>38 ナイジェリアについてのニュースを見て、大統領が実際に最優先課題として取り組んでいくことを宣言した内容を読みましよう。</p>	<p>T 発問する S 班の中で立場を決め、ワークシートに力を入れてほしいこととその理由を考えて書き込む</p> <p>T 指示する S 班で発表し、話し合った結果をホワイトボードにまとめる</p> <p>T 指示する S 班の発表者が意見を発表する</p> <p>T 指示する S ニュースを視聴後、資料⑲を読む</p>	<p><u>農村に住む人からの例</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・農作物の価格が安定してほしい。 ・農作物の収穫量を増やしたい。 ・道や水道などを整備してほしい。 <p><u>都市に住むお父さんからの例</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・給料が増えてほしい。 ・失業しないように職があってほしい。 <p><u>都市に住むお母さんの例</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ問題などを解決してほしい。 ・物価を安くしてほしい。 ・医療を充実してほしい。 <p><u>子どもたちの立場からの例</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・上級学校に負担なく進学したい。 ・家事を減らせるよう水道を引いてほしい。 <p>(ホワイトボードの書き出し「国の経済を安定させ、貧困から脱出するためには」につなげて、項目を考える)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国の経済を安定させ、貧困から脱出するためには①農業・工業への支援、②水道や道路、電力などインフラの整備を行うこと、③医療や教育の充実を図るべきである。 <p>(ホワイトボードにまとめたことを発表者が発表する。ランキングが似ている順に発表し、ボードを黒板に貼る。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テロが頻発している一因が経済格差にあることや「治安の維持と経済の立て直し(工業化、農業の多角化)」が最優先課題に掲げられていることを知り、解決の難しさに気付く。
<p>第6次・社会問題の解決策の評価</p>	<p>39 ナイジェリアの経済を安定させ、<u>人々が貧困から脱出するために日本やあなた自身が何をすればよいのか、それぞれ考え</u>、ワークシートに書きましよう。</p>	<p>T 指示する S ワークシートに自分の考えをまとめ、記入する</p>	<p>(ワークシートに自分の考えを書く。)</p> <p>①農業・工業への支援、②水道や道路などインフラの整備、③医療や教育の充実について、日本はODAによる資金・技術提供、青年海外協力隊などでの人の交流、企業のアフリカ進出を支援する。また、個人としては、NGOのボランティア活動に積極的に参加したり、フェアトレードの商品を購入したり、募金をしたりする。</p>

	<p>40 自分の考えを発表しましょう。発表を聞いた後にみんなから出た考えについて思ったことを発表してください。</p>	<p>T指示する S数人の生徒が発表した後、その意見について評価する</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が互いの意見を話し合い、その後出てきた意見について評価し合う。
	<p>41 日本が開発途上国の発展に協力していく際、JICAという組織がその中心的な役割を果たしています。その職員の方から日本がどのようなことをアフリカで行っているのかを話していただきます。自分たちの考えと似ているのか、考えながらお話を聞きましょう。</p>	<p>T指示する S講師の話聞く</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒たちの考えに対し JICA の職員からの評価を聞く。その中で具体的に JICA がアフリカで行っている病院、学校、道路等の「施設の建設」や、「資機材の調達」等の資金を貸与・贈与し国家の発展に必要な基礎的な要素を作ったり、専門家やボランティア（青年海外協力隊）派遣を行ったり、BOP ビジネスの支援を行ったりしていることを紹介されるのを聞く。 生徒の考えの中で誤解や矛盾があれば訂正してもらい、現状について正しく理解する。

※ JICA の職員に話を聞く時間は総合的な学習の時間の中で設定した。発展途上国で働いた経験のある職員が現状を伝えるだけでなく、生徒たちの意見を踏まえ国際協力の重要性について体験談を交えて話をしてもらった。

【資料】

- ①おもな使用言語とアフリカ～ヨーロッパ間の航空路：『社会科 中学生の地理』帝国書院、2012年、72頁。
- ②アフリカ各国の輸出相手国：『図説地理資料 世界の諸地域NOW 2015』帝国書院、2015年、100頁。
- ③アフリカの独立国：『中学校社会科地図』帝国書院、2012年、40頁。
- ④主なチョコレート・ココア消費国：日本チョコレート・カカオ協会HP、2015年12月7日閲覧。
- ⑤カカオ豆の価格の変化：投資情報サイト インベストウォーカーHP、2015年12月7日閲覧。
- ⑥人口1億以上の国の人口の変遷と穀物自給率：筆者作成、参考文献は以下の通り、総務省HP「世界の統計2007」、農林水産省HP「平成17年度食糧自給率レポート」、2015年12月7日閲覧。
- ⑦米の輸入国構成比：「世界のコム市場とアジアの米」奥山 宏『日本貿易会月報 2009年11月号』日本貿易会、2009年、29頁。
- ⑧アフリカ各国や日本、アメリカの経済成長率：筆者作成、参考文献は以下の通り、世界経済のネタ帳HP「世界の経済成長率ランキング」、2015年12月7日閲覧。
- ⑨5歳未満の児童の死亡率のワースト10とその国の平均寿命：『世界子供白書2015』日本ユニセフ協会、2015年、36～41頁。
- ⑩ナイジェリアの年間可処分所得ピラミッド：国際投信投資顧問株式会社HP、2015年12月17日閲覧。
- ⑪アフリカ各国の携帯電話普及状況：総務省HP「途上国におけるICTの浸透」、2015年12月7日閲覧。
- ⑫携帯電話の主な生産国：『ニュースのツボがわかるなるほど地図帳世界2014』昭文社、2014年、58頁。
- ⑬アフリカの国々の非識字率：『新詳地理資料 COMPLETE』帝国書院、2015年、182頁。
- ⑭初等教育（小学校）就学率：『世界子供白書2006』日本ユニセフ協会、2006年、98～101頁。
- ⑮アンケート調査「日本の会社がアフリカに進出した目的とは」：筆者作成、参考文献は以下の通り、日本貿易振興機構HP「ジェトロ在アフリカ進出日系企業実態調査」、2015年12月17日閲覧。
- ⑯各国の製造業の平均賃金：平野克己『経済大国アフリカ』中公新書、2013年、136頁。
- ⑰世界の主要国の年間一人あたりの電力消費量：四国電力HP、2015年12月15日閲覧。
- ⑱アフリカ各国の年間一人あたり電力消費量：『世界の統計2015』総務省統計局、2015年、165～166頁より筆者作成。
- ⑲ナイジェリアの大統領選挙：筆者作成、参考文献は以下の通り「2015年ナイジェリア選挙－政権交代の背景とブラリ次期大統領の課題」玉井 隆『アフリカレポートNo.53』日本貿易振興機構、2015年、25～28頁。

(3) 開発単元の成果

本開発単元は南砺市立井波中学校一年生において2016年1月26日より2月5日まで計6時間で実施した。前項で示した学習指導過程は、授業後若干の修正を加えた成案である。この実験授業の実施を通して、次の3点について成果が見られた。

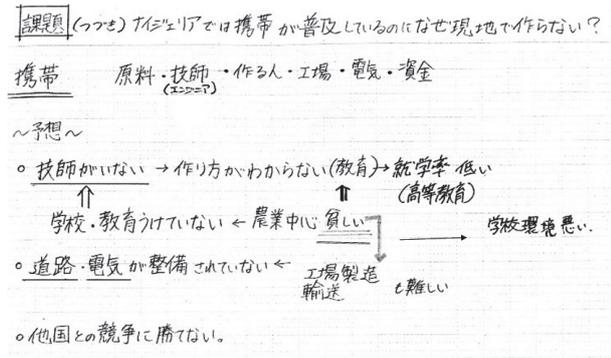
① 「社会的見方・考え方の成長」が見られた

第4次の「携帯電話をナイジェリア国内で製造しない理由について仮説を立て、検証する」活動の中で、仮説

2、3の検証を行っている際に、生徒側から「アフリカで物を作っても売れない」というつぶやきが出た。詳しく聞くと「売る場所（市場）は（昔から）関係のあるヨーロッパが多いと思うけれど、ヨーロッパの技術が高すぎて追いつけない」と言う。その意見に続いて、他の生徒が「中国みたいな安くていいものをつくる国に今から勝てる訳がないから今から金をかけて作るより、（輸入して）買った方が早い」と発言し、国際競争力が低いという仮説が出た。

また、この活動の最後に、すべての仮説が貧困から派

生していることをある生徒が指摘し、その発言に賛成する意見が続いた。これらの発言が、単元の中心概念である「モノカルチャー経済に起因する貧困はナイジェリアの工業化や発展を妨げ、国民は貧困から抜け出しにくい」ことへの理解へとつながった。下は授業の際の生徒のノートである。「貧しい」という語句から多くの仮説に対し関わりを意味する矢印が書かれている。



このように「なぜ疑問」を用いた説明型授業を行うことで、知識相互の関係性が理解できただけでなく、多くの概念・価値を獲得することができたと思われる。結果、社会的な見方・考え方が広がり、深まったと考えられる。なお、県下の中学生に対し富山県中学校教育研究会が毎年4月に行う学力調査では、今年度はアフリカ州について出題が6題あった。一例を挙げる。

問題：「アフリカ州では経済を特定の資源や農産物に頼っている国が多くみられる。それらの国ではどのようなことが問題になっているか、『価格』『経済』という2つの語句を用いて答えなさい」

この問題に対する正答率が県平均（抽出生徒数 1,048人）より 8.2% 高く、無答率も 1.8% 低かった¹⁴⁾。

アフリカ州の問題正答率は県平均をすべて上回った。この実践を行ったことにより地域の特色が概念として明確に捉えられたため、学習から時間が経過しても答えることができたと考えられる。

多くの教員が高校入試を想起し、知識を網羅的に教えたがるが、この実践のように生徒の関心と結びつきやすい主題を設定した説明型授業を行うことで他の地理的事象との関連もつきやすくなり、生徒の理解が深まることがわかった。

② 「社会的見方・考え方の成長」が生徒の社会参画の能力を育てることにつながった

授業の中でアフリカ州の貧困に対し自身ができることとして「フェアトレードの商品を買う」「募金やボランティア活動に参加」と書いた生徒が多かった。加えて、単元後のアンケートでも 70.3% の生徒が「アフリカ州の貧困を解決していく必要があると思うようになった」、

31.3% の生徒が「アフリカについてのニュースや新聞記事を見るようになった」と答え、関心が高まったことが分かる。また 50% の生徒が「今できるボランティア活動（書き損じはがき回収等）に協力したいと思った」、10.9% が「将来、アフリカに行きボランティア活動がしたくなった」と答え、自分にできることをやろうとする意欲が出たことがわかる。学習後に校内で行われたペットボトルキャップ回収運動にも熱心に取り組んだ。

この授業実践が社会認識や意思決定力の育成だけでなく、将来、社会に積極的に参画しようとする意識を高めることにもつながったと思われる。

③ 主体的に学習に参加する生徒が多くみられた

日本と関わりの強くないアフリカ州の学習は生徒たちの知識も偏りがちで、当初関心も高くなかった。しかし、単元学習後のアンケートで「授業にどのような姿勢で取り組んだか」という質問に対し、「積極的に取り組んだ」「まあまあ積極的に取り組んだ」と答えた生徒が 65.6% と 3分の2 に上り、「学習がおもしろかったか」と興味を尋ねる質問には、「とてもおもしろかった」「まあまあおもしろかった」が 76.5% と 4分の3 以上の生徒が学習に興味をもてたと解答している。また、全学習活動のなかで生徒自身が特に熱心に取り組んだ活動として、カカオ豆に頼っている経済の現状を打破する対策を考える活動（52%）やナイジェリアの大統領に対し自分たちの要望を考える活動（42%）が挙げられた。どちらの活動も学んだ概念を生かして解決策を考え、どの策が重要かその価値を考える活動である。様々な社会問題の原因を探求するだけでなく、その解決のために何ができるのか自分自身で考える活動を設定したことで、自ら学ぼうとする意欲が高まったと考えられる。

7 結論

本研究の成果は、2点挙げられる。

第一点目は、社会的な見方や考え方を成長させることのできる中学校社会科単元を新たに開発することができたことである。アフリカ州を教材として、「教師による発問・指示」「期待される生徒の反応」「教師と生徒の活動」「使用する資料」を単元の全授業に渡って明示した授業案はこれまでないであろう。しかも本論文では、「知識・概念の構造」「問いの構造」を明示しており、現行学習指導要領の趣旨を具現化するものとして、現場教員の授業づくりに役立つであろう。

第二点目は、本開発単元の提起によって、社会的な見方や考え方を成長させる授業は、社会参画の資質・能力を育成するとともに、生徒の関心・意欲を向上させ、主体的に学習に参加させることを実際に観察できたことである。実験授業の実施は、暗記社会科の弊害が指摘される中で、中学校社会科授業の新たな可能性を示唆するものとなった。

【註】

- 1) 文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』日本文教出版、2008年、3頁。
- 2) 拙著『見方考え方を成長させる社会科授業の創造』風間書房、2013年。
- 3) 前掲書1)、7～8頁。
- 4) 前掲書2)、16頁。
- 5) コア・カリキュラム連盟編『カリキュラム』1953年12月号に掲載された本実践は、今でも「典型的な問題解決学習の社会科授業である」と評価されている。(社会認識教育学会編『改訂新版 中学校社会科教育』学術図書出版、2005年、13頁)
- 6) 小原友行「小・中学校社会科カリキュラムをどう変えるか～ユニバーサル・スタンダードを求めて～」社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第20号、2008年、216頁。
- 7) 前掲書1)、34～35頁。文部科学省『中等教育資料平成24年7月号』学事出版、2012年、60～61頁。
- 8) 前掲書1)、34頁。
- 9) 同上。
- 10) 北川勝彦・高橋基樹編著『現代アフリカ経済論』ミネルヴァ書房、2014年、142頁。
- 11) 前掲書1)、32～35頁。アフリカの地域的特色は、様々なとらえ方があるだろうが、本研究では、中学校教育現場での授業改善を目的としているため、学習指導要領での指示および例示に基づいて、進めている。
- 12) 平野克己『経済大陸アフリカ』中央公論新社、2014年、86頁。
- 13) アフリカの穀物生産と物価高については、池上彰『池上彰のアフリカビジネス入門』(日経BP社、2013年)に詳しい。
- 14) 富山県中学校教育研究会では調査結果について非公表としているため、ここで県平均に関しての数値を示すことができない。

(2016年8月23日受付)

(2016年10月5日受理)

	生徒の認識	具体的事実・教えたこと（知識）	概念	中心概念	社会的考え方（価値）
第一次	歴史	a	アフリカの国境はヨーロッパの宗主国によって緯度や経度を基準に人為的に引かれたので、直線的な国が多い。	A 植民地を受けた国々では、旧宗主国の残りが農業、貿易に受けられている。	一年中同じ作物が生産できる気候や地形、植民地支配を受けた歴史から生まれたモノカルチャー経済はアフリカの国の発展に大きく影響し、国民は貧困から抜け出しにくい。
		b	イギリスやフランスなどヨーロッパの7か国の植民地だった。エチオピアとリベリアだけが独立国だった。		
		c	ヨーロッパの国々の植民地として支配されており、1960年代に多くの国が独立した。		
		d	ナイジェリアはハウサ語、ヨルバ語、イボ語を話す。公用語は英語である。		
		e	ガーナやケニア、シエラレオネなどはイギリスに支配されていた国である。		
第二次	農村での生活	f	アフリカの国々の輸出品は一次産品や特定の農作物に偏っている。	B アフリカ各国では資源に外貨を得た情勢にやすくない。	国の経済を安定させ、貧困から脱出するためには幅広い穀物栽培を行う農業への支援や、技術の移転など工業化への支援を行うべきである。
		g	子どもが多く、重労働の割には賃金が安い。		
		h	ナイジェリアではコーヒー、カカオ、綿花、商品作物が販売目的で栽培されるプランテーション農業がさかんで、カカオ豆はヨーロッパで消費されている。		
		i	価格は年によって変動し、2014年からカカオの需要が高まり、価格が上昇した。2012年までは暴落していた。価格は天候が不順で生産量が減った時やチョコレートの消費量が増えた時に上がる。		
		j	ナイジェリアの穀物自給率は84%である。主食のコメの不足分は輸入している。		
		k	フェアトレードや政府が最低買取価格を決めることによって農家の人々を守っている。		
		l	ナイジェリアのラゴスは近代的な高層ビルが立ち並び、都市化が進んでいる。		
m	マイナス成長の日本に対し、ナイジェリアの経済成長率は6.31%と急速に発展している。				
n	都市に商品が集まり、ものが売れる。職業の幅が広く、就職しやすい。道路や電気などインフラ整備が進んでいる。				
o	スラム街が広がっている。医療や住宅、教育問題などが考えられる。				
p	平均寿命は日本が84歳、ナイジェリアが53歳である。死亡率もナイジェリアが極めて高い。				
q	ナイジェリアの絶対貧困層の割合が64.4%であり、金持ちと貧しい人の格差が大きい。				
第四次	工業化と経済の発展	s	国によって違うが、ナイジェリアの携帯電話普及率は75%以上である。日本は94.5%である。	D 生産原料の調達だけでなく、インフラの整備、教育的な整備が必要になる。	国の経済を安定させ、貧困から脱出するためには、水道や道路の舗装などのインフラの整備を行うべきである。
		t	アフリカでは原油や石炭、鉄鉱石、金、銅などが採れる。金やコバルトはコンゴ民主共和国や南アフリカ共和国、ジンバブエで取れる。		
		u	携帯電話は韓国、中国、アメリカなどで生産し、アフリカでは生産していない。		
		v	教育が整備されておらず、アフリカの識字率は低く、文字を読めない人なども多い。		
		w	スキルを必要とする賃金の高い仕事に就業できない。		
		x	日本の会社は生産ではなく、販売拠点として進出している。		
		y	アフリカの労働者は賃金が高く、外国企業が労働力として安く雇えない。		
		z	工業製品を作る際にインフラ設備が整っていないと生産が滞る。		
		α	インフラを整備するために、国が発電所を作るなど力を入れる必要がある。		

図3 知識・概念の構造

		具体的事実（知識）を引き出す発問	概念を答えさせる発問	全体を 貫く課題	社会的考え 方（価値）
第一次	歴史	a	アフリカの国境はどんな特徴がありますか。何を利用して引かれていますか。	A アフリカとヨーロッパの国々の間にはどんなつながりが見られますか。	ナイジェリアは経済が発展しているのになぜ農村も都市も貧しい人が多いのでしょうか。
		b	アフリカの国々はどの国の植民地でしたか。また第一次世界大戦前に独立国だった国はいくつありますか。		
		c	ナイジェリアは今から何年前、どこから独立しましたか。		
		d	ナイジェリアで話されている言葉は何語ですか。学校では何語を話しますか。		
		e	アフリカ州で公用語が英語の国はどこですか。		
第二次	農村での生活	f	アフリカの輸出品目についてどんな特色がみられますか。	B 特定の農産物ばかり作っているとどんな問題点が考えられますか。	
		g	カカオ農園で働いている人は何歳ぐらいでどんな様子で働いていますか。		
		h	カカオ豆はどの国で栽培され、どの国で消費されていますか。		
		i	カカオ豆の値段にはどのような変化が見られますか。価格が高くなるのはどんな理由が考えられますか。		
		j	ナイジェリアの穀物自給率は何%ですか。		
		k	カカオ農家の収入を安定させるためにどのようなことが行われていますか。		
第三次	都市での生活	l	写真から（ラゴスについて）どのような街だとわかりますか。	C 発展途上国で経済が発展してくると、人々の生活にどのような変化が見られますか。	
		m	ナイジェリアの経済成長率は日本やアメリカと比べてどのような特徴が見られますか。		
		n	ナイジェリアの旧首都ラゴスのように都市に人が集中するメリットは何ですか。		
		o	都市に人口が集まってくると、どのような問題が生じると考えられますか。		
		p	ナイジェリアと日本の平均寿命や5歳以上の死亡率にはどのような違いが見られますか。		
		q	ナイジェリアの絶対貧困層の割合はどのぐらいの割合ですか。		
第四次	工業化と経済の発展	s	アフリカと日本では携帯電話はどのぐらい普及していますか。	D なぜアフリカ諸国では携帯電話が普及しているのに自分の国で製造しないのですか。	
		t	アフリカではどんな鉱産資源が採れますか。また、携帯電話を作るのに必要な金属のコバルトやマンガンはどこでとれますか。		
		u	携帯電話を生産している国はどこですか。		
		v	アフリカの識字率や小学校就学率は日本と比べてどの程度ですか。		
		w	文字が読めないと、仕事をするときどのようなデメリットがあるか。		
		x	アフリカに進出する日本の会社が増えていますが、主要な業務内容は何ですか。		
		y	アフリカの国々において労働者の賃金はアジアの国々と比べてどのような特徴がありますか。		
		z	工業製品を作り、出荷するまでに欠かせないものは何ですか。		
		α	インフラ整備のためにどのようなことを誰がすればよいのでしょうか。		

図4 問いの構造